

令和7年度 セルフモニタリング報告書

令和8年4月30日

施設名	勇払マリーナ
指定管理者名	株式会社ベルポート北海道
所管課名	苫小牧港管理組合 総務部 港湾政策室 業務経営課

モニタリング項目	指定管理者コメント	自己評価
1 事業計画の達成度		
事業計画の内容に従い、適切に施設の管理運営が行われたか。	事情計画に従い、管理運営方針を作り具体的な目標を掲げて取り組み、適切に施設の運営管理を行った。	A (B)・C・D・E
利用者の増加、利用率の上昇、利便性の向上などの目標は達成されたか。	保管契約数は令和6年度が141隻、令和7年度が163隻で22隻(15.6%)の大幅な増加、出帰港数は令和6年度が2,462回、令和7年度が2,500回で1.54%増であった。保管定数が大幅に増加したのは胆振沖でクロマグロの回遊が見られ、古平マリーナの縮小もあり、日本海側でマグロ釣りをしている遊漁船やプレジャーボートが移動してきた他、利用者と積極的にコミュニケーションを図ったことにより、口コミにより他のマリーナや漁港から移動してきた方が増えたためである。出帰港数の増加も保管艇数の増加に付随するものである。	(A)・B・C・D・E
自主事業は計画どおり行われたか。	計画の中では管理棟ロビーでの売店展開が通年で出来なかったこと以外はほぼ計画通り実施出来た。	A (B)・C・D・E
地域や関係機関等と協力・連携した取組が行われていたか。	トライアスロン大会、マラソン大会、花火大会、神社例大祭、夏祭りなど地域行事へ積極的に参加及び協力した他、苫小牧市による移住オーダーメイド事業にプログラムとして船舶利用による「釣り体験」協力を提案、苫小牧海上保安署、苫小牧漁業協同組合と連携し利用者の安全航行に対する啓蒙活動を行った。	(A)・B・C・D・E
2 利用者への対応		
利用者の意見・要望の把握は適切に行われているか。	施設利用者に対しアンケート調査を行っており、R7年度の回収率は54%(前年49%)であった。また、利用者の希望・意見を取り入れるため、本年度は「マリーナ協議会」を計画し、4月26日に実施した。継続していき利用者の声を聴く機会を作っていくたい。	A (B)・C・D・E
利用者の意見・要望・苦情への対応は十分に行われたか。	前項のアンケート調査の他、管理棟エントランス、Bヤードハウスに意見箱を設置し意見、要望、苦情の把握に努めている。ハード面の意見については適時管理組合に報告、必要であれば修繕を依頼し、利用者のマナーに関しては公式LINEや掲示板を利用し注意喚起を行っている。	A (B)・C・D・E
天候・修理・工事等による利用制限の説明・周知は適切に行われたか。	ホームページや公式LINEでの情報提供、施設内7か所に設置した掲示板による周知、対面による説明など適切に行っている。	(A)・B・C・D・E
3 管理運営の効率性		
経費の低減が図られているか。また、その取組は十分か。	経費の低減に努め、特に負担の大きい光熱水費については細やかな節約を徹底、利用者が使う船への給電に関しても従量制の導入及び節電を呼びかけ、電気料金が高騰している社会情勢にも関わらず大幅に削減することができた。	A (B)・C・D・E

収入増加のための取組はされているか。	新規利用者獲得に向けてビジター利用者、レンタルボート利用者、ボート免許取得者への声掛けを昨年度より積極的に行っているが、利用者間のネットワークを活用し勇払マリーナをPRしていただき、保管艇、ビジター利用ともに利用増及び収入増に結びついている。またいわゆる「御用聞き」を積極的に行い、船舶の修理、メンテナンスの注文を増やし、収入増に繋がっている。ホームページやSNSなどを利用した宣伝活動も継続しているが、マリーナと利用者がコミュニケーションを密に取り、協調して取り組みを進められている状況である。また、胆振・日高管内の道の駅、苫小牧市内・千歳市内の釣具店にポスターを掲示しチラシを配布した。	Ⓐ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ
一部業務の再委託に要している経費は、適切な水準か。また、経費が最小となるような取組はされているか。	再委託として防火設備点検、電気設備点検、フォークリフト及びタイヤショベル自主特定点検、給油地下タンク法定点検、館内床清掃、汚泥抜き取りなど事業計画書に記載されている内容で実施、その支出経費は最小に抑えている。	Ⓐ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ
4 適正な管理運営		
職員の能力向上に向けた取組は行われたか(研修等)。	普通救命講習、2級船舶、1級船舶、特殊船舶、自衛消防訓練、タイヤショベル等運転研修などを行っている。	A Ⓑ・Ｃ・Ｄ・Ｅ
安全対策(事故防止等)は十分だったか。	今期は船台から船舶を落下させる事故を発生させてしまった。これを反省し今後の対策に活かし、作業工程を見直すとともに船台すべてを見直し改善を行った。	A・Ｂ・Ⓒ・Ｄ・Ｅ
人員配置及び職員の管理体制は適正か。	事業計画書に記載の通り適正に行われているものの、預かり船舶が増加したことにより、人員不足となっている。計画の見直しが必要。	Ⓓ・不適
施設の平等な利用等について、適切に処理されているか。(使用料の減免、還付含む)	施設利用は会員、ビジターともに平等な接遇を行っている。(使用料の減免、還付は行っていない。)	Ⓓ・不適
利用者の個人情報等について適正に管理が行われているか。	利用者の個人情報及び鍵の管理については適正に保管、管理している。	Ⓓ・不適
収支の状況に不適切な点はないか。会計処理は適正か。	収入について、請求漏れ、徴求漏れあり、現在調査の上処理中である。	適・Ⓓ
施設・設備等の法定点検及び保守は適正に行われているか。	法定点検は消防設備点検、電気設備点検、自社管理船舶定期検査を実施している。	Ⓓ・不適
書類・備品等の管理は適正に行われているか。	関係書類、備品等については適正に管理している。	Ⓓ・不適
法令・協定書等を遵守し、適正管理が行われているか。	必要な関係法令、協定書については都度中身を確認し、適正に管理している。	Ⓓ・不適
管理組合と指定管理者との間で十分に連絡、連携が図られているか。	利用者からの意見、要望、苦情、施設の破損や事故、イベント開催について随時指定管理者から管理組合には報告しており、必要に応じて打ち合わせも行っており、十分に連絡、連携が図られている。	A Ⓑ・Ｃ・Ｄ・Ｅ

5 地域貢献		
雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。	雇用については原則市内在住者と定めているが、条件、技能の関係で他市在住者も雇用している。資材調達、再委託についても船舶用品など特殊なものを除き原則市内事業者に発注するように努め、地域貢献を推進している。	A ☒ B ・ C ・ D ・ E

A	目標、事業計画を大幅に上回る取組がされており、管理運営状況は極めて良好である。
B	目標、事業計画どおりの取組がされており、管理運営状況は良好である。
C	概ね目標、事業計画どおり行われており、管理運営も適正で、特段問題は見られない。
D	目標、事業計画において一部未達成があるなど計画内容を下回っており、管理運営において一部不適切な部分があるなど、改善が必要と認められる点がある。
E	目標、事業計画の内容を大幅に下回っており、かなりの部分において、改善が必要である。

総合評価 A ・ B ・ ☒ C ・ D ・ E (該当するものに○)

14 適正な管理運営]において不適がある場合、その理由と今後の対応について

会計処理において、未収分の解決を早期に図るとともに、作業発生時の受付から実施、そして、代金回収までの流れを改善する。

指定管理者の自己評価(全体を通して)

令和6年度から、契約艇が大幅に増加しています。この理由としてはまず昨年クロマグロが胆振沖に回遊してきたこと、そして、例年より多くのイカの回遊があったことなどがロコミで広がり、他のマリーナや漁港からの移転が大きかったことがあります。また、ビジター利用者、レンタルボート利用者、船舶操縦士免許取得者などときめ細かな深耕を図り、船舶の入れ替えによる旧艇の販売や、退会する利用者の船舶販売先への艇置のお勧めなどを行い、預かり船舶を減少させないオペレーションを行ってきたことがあります。

本年は船舶の落下事故を1件発生させてしまいました。原因はスタッフの不注意と利用者からお預かりしている船台の不具合によるものです。今後2度と同じことを発生させないよう、現場での確認事項や確認方法(声出し確認など)を徹底するとともに、不具合のある船台については利用者に伝えて改善してもらいました。この際考えられるすべての事故について危険性を思料し、対策を打ったためその後はトラブルは発生しておりません。

預かり船舶数は増加したものの、一般の道民・市民に対してのマリンレジャーの振興は、遅れており昨年度は夏季のみのゴムボートレンタル事業を行いました。本年はさらに積極的に進めていきます。